

運送事業は生活や産業活動に欠かすことのできない公共性のある事業です。流通構造が進化し、欲しい製品があればすぐ手に入れられる便利な生活環境には、製品を安定して事故なく運ぶ運送事業者の存在が必要不可欠です。

しかし規制緩和が進み、運送事業者数は右肩上がりに上昇する状況の中で、結果として価格競争は激化し、今なおその傾向がうかがえます。

その中で、どの事業者もコスト削減を中心とした合理化に取り組み、生き残りを賭け必死になって経営努力をしています。

努力をして素晴らしい製品を作ったが、購入者の手に届いた時、破損や変形が見つければ、その製品は価値を失い製造者の信用も失墜させる事となります。

運送の仕事は、お預かりした貨物を指示された日時・場所へ正確に届けるという単純な業務であり、しっかりできて当たり前と認識されています。事故は許されません。

加えて荷物を預託される多くの荷主様も **物流の差が企業の差にあらわれる** と期待を寄せられているところであります。

物流の差

運送事業者は限られたメーカーで生産される機材(車両・燃料・コンテナ・冷凍機など)を使用して業務を行っております。運送会社名は違えども、実輸送の供とする輸送機材はほとんどが同じものであり、大量購入などによるコストダウンが実現できる資本力の強い事業者にとっては有利に働きます。

その対抗策とし、弊社が生き残るためには **輸送品質の向上** 以外に方法はないと考えました。以降ご紹介させて頂く事項につきまして、実行する事をお約束いたします。

お客様の信頼と満足を頂けるよう全社一丸となって輸送品質の向上に取り組み、運輸産業を取り巻く厳しい経営環境を克服して参りたいと考えております。

何卒ご理解を賜り、引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

それでは、近年課題とされている環境問題への対応とあわせて、次ページ以降、弊社の「安全・環境への取り組み」をご紹介します。

事業所としての取り組み

Action as a business establishment

安全性優良事業所

Safety excellent business establishment

安全性優良事業所認定制度(Gマーク)は、荷主企業や一般消費者が、より安全性の高いトラック運送事業者を選びやすくすると共に、事業者全体の安全性向上に対する意識を高めることを目的に、全国貨物自動車適正化事業実施機関である全日本トラック協会が、運送事業者の安全性を正当に評価・認定し、公表する制度であります。

弊社はこの「安全性優良事業所」に認定され安全性の向上に向けて全社一丸となって取り組んで参ります。

(認定事業所 本社営業部・八戸営業所)



運輸安全マネジメント

Transportation safety management

一般貨物自動車運送事業者として輸送の安全と品質の確保が最も重要であることを自覚し、全従業員参加のもと運輸安全マネジメント体制の継続的維持と向上を図っております。

絶えず輸送の安全優先意識の周知徹底と関係法令及び社内規定を遵守することを基本とし、以下の安全方針と目標を実現するよう努めて参ります。

【 安全方針 】

- ・ 安全輸送はわが社の使命
- ・ 安全・安心で届ける輸送

【 目 標 】

- ・ 今年も人身事故ゼロに
- ・ 飲酒運転は絶対にしない
- ・ 優しい心で安全運転

安全への取り組み

Action to safety

ドライバーミーティング

Safe management of a driver

Driver meeting

「企業は人なり」と言われているように、社員教育は非常に重要な課題として位置づけております。

弊社では定期的な実務者会議（ドライバーミーティング）を開催し、乗務員及び輸配送担当者に対し、お客様のご要望や取決め事項などについて現場への落とし込みを行うほか、業務態度や挨拶など基本的な道德教育も合わせて行っております。

文書や口頭での指導だけではなく、写真などの視聴覚教材を活用し、より理解しやすいような指導を行っております。

また個々の乗務員に対し、ドライブレコーダーやデジタコなどの各車両機器から得られる数値データを開示し、早期に問題点を発見し、安全運行の更なる向上を目指して参ります。



ドライブレコーダー

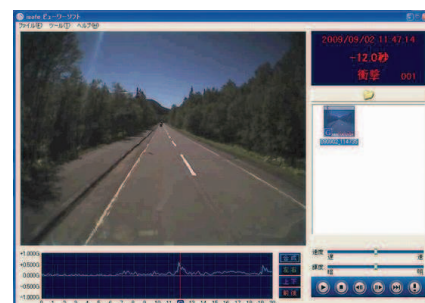
Drive recorder

運転中に大きな衝撃や振動が生じた場合、その前後20秒間を録画し、衝撃度合いを数値で示すことが可能なドライブレコーダーを装着しています。

交通事故が生じ、事故の当事者どうし主張が食い違った場合、今まではブレーキ痕や車両部品の破片分布状況によって事故原因を推測していましたが、実際の運転状況を録画していれば、事故が発生しても原因を正確に把握できます。

交通事故に限らず、荷崩れ事故などが発生した場合にも、運行中の衝撃や振動が事故原因にどの程度関与したかを検証する事に役立てられます。

また、録画されることにより乗務員の安全運転意識が働き、不適切な運転動作の抑止効果が期待されます。



デジタルタコグラフ

Digital tachograph

車両の速度や回転数をグラフ化することで、その車両の稼働状況を把握する計器であるタコグラフは、道路運送車両法において保安基準として装着を義務付けられています。

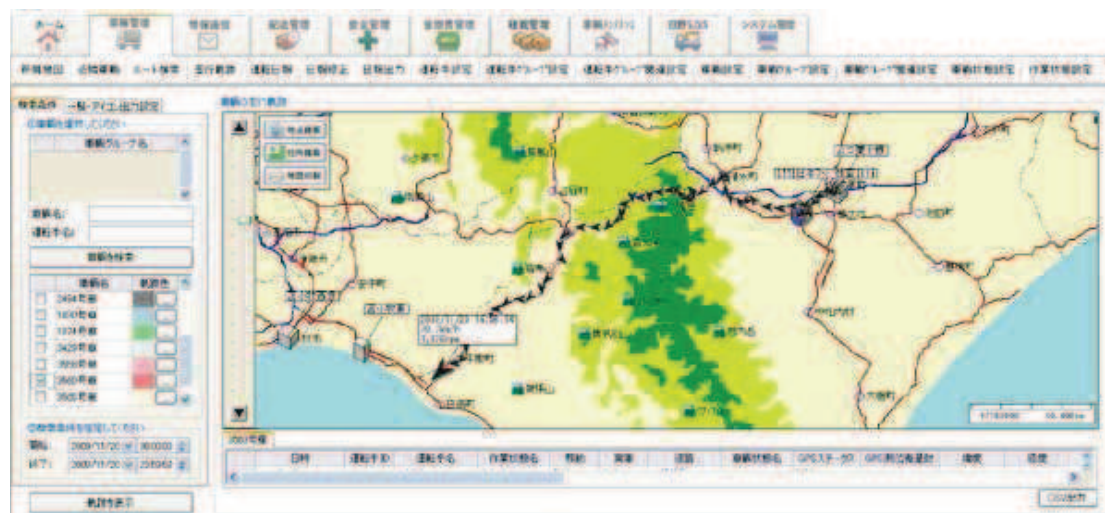
ここ数年タコグラフ装置が進化しており、各要素を数値化し電氣的に記録するデジタルタコグラフ(以下 デジタコ)が実用化されており、弊社も導入しています。

デジタコによって数値把握できる運転要素は、基本的な「速度」「時間」「距離」「エンジン回転数」の他に「急加速・急発進」「燃費効率」「アイドリング時間」「運転技術の総合評価」などが挙げられます。

これらの数値を乗務員の運転分析に活用し、安全管理の強化・乗務員教育・エコドライブに役立てています。

また、GPS機能による位置確認や運行軌跡なども把握可能です

乗務員の安全運転に対する意欲を向上させるため、デジタコによる運転分析を乗務員評価に活用し、優秀な乗務員には報奨する制度も行っております。



Action to safety

アルコール検査

Alcohol checker

飲酒運転防止を徹底するため、弊社では運行前及び運行後に、携帯電話を利用したアルコールチェッカーを使用し、業務期間内に飲酒が無いことを確認しております。

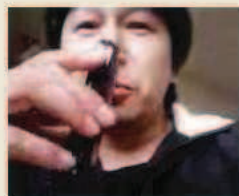
平成21年6月より飲酒運転等に対する行政処分が強化され、今後は運送事業者に対する管理責任も厳しくなる見通しであり、国土交通省からはアルコールチェック義務化の方針も検討されているとの事です。

弊社では事業所内のみでアルコールチェックを行っていましたが、遠隔地でも乗務員の飲酒状況を把握する必要があると考え、携帯電話を利用したチェッカーに切替えました。

時間や場所を問わずチェックできる体制を整備しており、飲酒運転防止に対し厳しく監視しています。



測定結果編集

日時:	2009/10/27 10:04	
電話番号:	090-4876-0982	
測定値:	0.00 mg/l 異常なし	
社員名(S):		
社員番号:	0016	
運行管理者(Q):		
メモ(M):		

OK キャンセル

健康診断

General checkup

安全・安心な業務を遂行するためには、その業務を行う社員の健康が一番大切なことだと考えております。

労働者の健康診断は労働安全衛生法などによって定められるところであり、当社も年1回の健康診断を義務化しております。

定期健康診断以外に人間ドックを希望する職員に対し、受診費用の補助を行い積極的な健康管理を奨励しています。



安全適性検査

Safe aptitude test

運送事業者は雇用している乗務員に対し、初任運転者・65歳以上の高齢運転者・事故惹起運転者を対象に、適性診断を受診させる義務があります。

弊社も入社時に自動車事故対策機構（NASVA）が行う初任診断及び一般診断の受診を義務づけております。

適性診断はドライブシミュレーターや動体視力計などの機器を用いて、安全態度や動作の正確さ・判断のタイミングなど技術点の他に、動体視力や深視力などの視覚機能、感情の安定性や協調性などの心理面を診断します。

この結果を基に、各乗務員が自分の運転適性を把握し、日々の運転業務に役立てています。また、適切な助言・指導を行い、「安全運転」に取り組んでいます。



車両・冷凍機の保守点検

Check of track and frozen refrigeration machine

トラックやトラクタヘッドなど原動機付き自動車は、道路運送車両法に基づく自動車点検基準において日常点検・3カ月点検・12カ月点検の実施及び点検記録の保存が定められています。

弊社では年間を通しての点検整備計画を立て、自社及び車両メーカーの工場にて、各項目別に保守点検を行っております。

また冷凍機の管理につきましても、同様に日常点検・3カ月点検を行っており、消耗部品の交換を早期に実施し、輸送中の冷凍機トラブルが生じないよう最善を尽くして整備の面から安全を支えています。



窒素ガスの導入

Nitrogen gas

タイヤへの空気充填は酸素20%窒素80%のガスを使用することが一般的ですが、弊社ではガスチェンジャーを購入し、窒素100%のガスを使用しています。

窒素ガスを使用する事によって以下のメリットがありました。

- ・ ガスが抜けにくく、乗り心地の向上や荷台の振動抑制が確認された
- ・ タイヤの熱を抑えられるため、ゴムの劣化やホイールの酸化が少なくなった
- ・ 運行中のバーストが激減し、安全性が向上した

35トンを超える車両総重量を支えるタイヤの安全を確保することは、交通事故防止に必要不可欠であり、今後も継続して参ります。



エアサスペンション

Air suspension

エアサスペンションは圧縮空気の弾力性を利用したバネ装置であり、バスに多く使用されています。トラックでは従来、廉価なリーフ式サスペンションが主流でしたが、最近では標準装備されるようになってきました。

弊社の車両にもトラック・トラクタ及びシャーシ（荷台車両）に多く取り入れられています。

利点として金属製のリーフ式サスペンションでは吸収しきれない微細な振動を減衰できる。乗り心地が良く乗務員の過労・腰痛を減らせる。車両内でパレットを移動する際、車高を調整しスムーズな作業が行える。事などが挙げられ、乗務員にも高く評価をされています。

先に説明しました窒素ガスと合わせて使用することで、さらなる効果を生み出します。

車両の洗浄

Vehicle washing

食品を輸送する業務が多い弊社では、いつも清潔な車両でお客様の所へ出入りしなければなりません。

車両の荷台内は手動洗車機、車両の外側は自動洗車機を使用して、お湯で洗浄しています。また異臭防止のため、生魚や臭気の強い柑橘類は積載しないよう努めております。

北海道や東北では、冬期間道路の凍結を防止するため塩分の多い融雪剤を路上に散布しますが、車両に付着した場合早めに洗い落とすことによって、車両の錆び付きや車両の下に付いている冷凍機の故障を防止することにも繋がります。



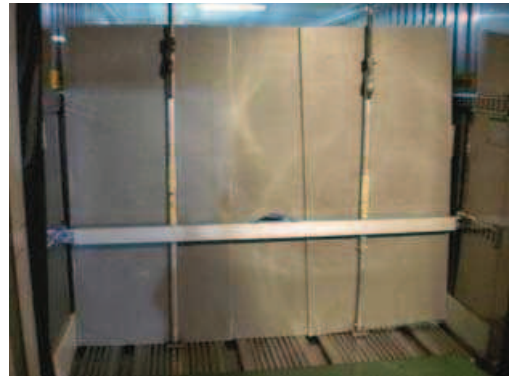
厚物プラダンシート

Thick plastic board

厚物プラダンシート(商品名:スミパネル)をベニヤやコンパネの代替えとして使用しています。スミパネルの長所としては、中空構造のため軽く扱いやすい事と、プラスチック製品であるため木くずなどのゴミが出ない事、耐久性がある等が挙げられ、様々な用途に利用されています。

木くずが出ないため、積荷車両内が清潔に保たれ異物の混入が防止されます。

また、廃棄焼却処分時に完全燃焼し有毒ガスを排出しないなど、環境面にも配慮された製品であります。



緩衝ボード

Cushioning board

荷物どうしの隙間を埋める緩衝資材として、厚手のダンボールや発砲スチロールを使用していましたが、ゴミや耐久性の問題を解決するため、帯電防止剤入りポリエチレンで作られた緩衝ボード(商品名:EPスペーサー)を使用しています。

発泡スチロールの「ビーズがこぼれ落ちる」「汚れる」「割れやすい」という問題を解決でき、折り畳んでも使用できるため、広いスペースの隙間埋めにも活用できることが特徴です。



アイドリングストップ

Idle reduction

地球温暖化はグローバルな課題として報道されているとおりですが、それぞれの立場での取り組みが求められています。

弊社でも業務のエコ化を推進していますが、運送事業者が実現可能な最も効果のある方法はアイドリングストップではないでしょうか。

アイドリングストップを行うことによって軽油消費量が低減される事は明白ですが、その効果については、10～15％程度の軽油使用量が削減されると言われております。

加えて排気ガス総量の抑制による環境保全の向上や、車両待機場所近隣の騒音問題などが解決されます。

しかし、車内で仮眠するときなど長時間休息の場合、外気温が適温の場合は良いのですが、夏冬の外気温異常時にアイドリングを止めた場合、乗務員にとって精神的・肉体的負担がかかる事が懸念されます。

そこで軽油燃焼式エアヒーターの導入を進め、冬期間に限りアイドリングによる燃焼消費を最小限に抑え、環境負荷を軽減できるよう取り組んでいます。



(ペバストヒーター)

グリーン経営 及び チーム・マイナス6％への参加

Green management & Team minus 6 percent

国土交通省所管の外郭団体である交通エコロジー・モビリティ財団が認証期間となり、一定レベル以上の環境保全の取り組みを行っている運送事業者に対して環境改善の努力を客観的に証明する制度において、弊社は認証を受けています。
(グリーン経営認定事業所 東京支店)

深刻な問題となっている地球温暖化。世界に約束した日本の温室効果ガス排出量の削減目標は、1990年に比べて6％削減することです。

これを実現するための国民的プロジェクトが「チーム・マイナス6％」です。

弊社では事業所ごとにペーパーレスへの取り組みや節電、資源ゴミの分別、クールビズの導入などを行い、小さな事ですが温暖化防止に向け、取り組みを続けていきたいと考えています。

